

切迫早産

監修：昭和大学 産婦人科学 教授 岡井 崇

切迫早産とは？

早産になりそうな徴候（サイン）はあるものの、安静や治療によりそれを防止できる可能性がある場合を「**切迫早産**」^{せつぱくそうざん}といいます。
 なお、後期流産の時期の同じ状態を「**切迫流産**」^{せつぱくりゅうざん}といいます。*

*後期流産の時期に起こる「切迫流産」の症状、原因、治療などについては、「切迫早産」とはほぼ同じです。



流産

妊娠22週未満に妊娠が終了してしまう状態で、早期流産と後期流産があります。

【早期流産】 妊娠12週未満に起こり、原因はおもに受精卵の異常です。この時期の流産はほとんどの場合、防止することができません。

【後期流産】 妊娠12週以降22週未満に起こり、原因はおもに母体の要因といわれています。この時期の流産は、治療により防止できる場合があります。

正期産

妊娠37週から41週の間の出産をいいます。通常の妊娠ではこの期間に分娩となります。この期間は出産に最も適した時期で、産まれた赤ちゃんは、母体外の生活に十分適応できます。

早産

妊娠22週以降から37週未満の間に出産してしまうことです。早産の赤ちゃんは未熟なので、身体の機能が完成するまで、集中治療室（NICU）に入院する場合があります。また、早過ぎる早産の場合は、出産後うまく育つことのできない可能性もあります。

過期産

妊娠42週以降の分娩をいいます。この場合、胎盤の機能が低下しているために、分娩中に子宮の中の赤ちゃんに問題が起こったり、赤ちゃんが大きくなり過ぎて難産になるなどの可能性があります。

切迫早産のサイン

おなかの張りや腰の痛みなどは、特に問題のない妊娠でも見られますが、切迫早産のサインの場合もあります。これらがみられたら無理をせず、主治医に相談しましょう。

また、膣から血液や水の様なものが出た時は、すぐに主治医に連絡しましょう。

- おなかや腰の痛み
- おなかの強い張り
- 膣からの出血
- 破水

赤ちゃんを包んでいる膜（卵膜）が破れて、羊水がもれでること。尿と間違えてしまうこともあります。



切迫早産の原因

切迫早産は、出産に適した時期となる前に次のような原因により、子宮が収縮したり、子宮の入り口(子宮頸管)が広がるために起こります。

頸管・子宮内の炎症

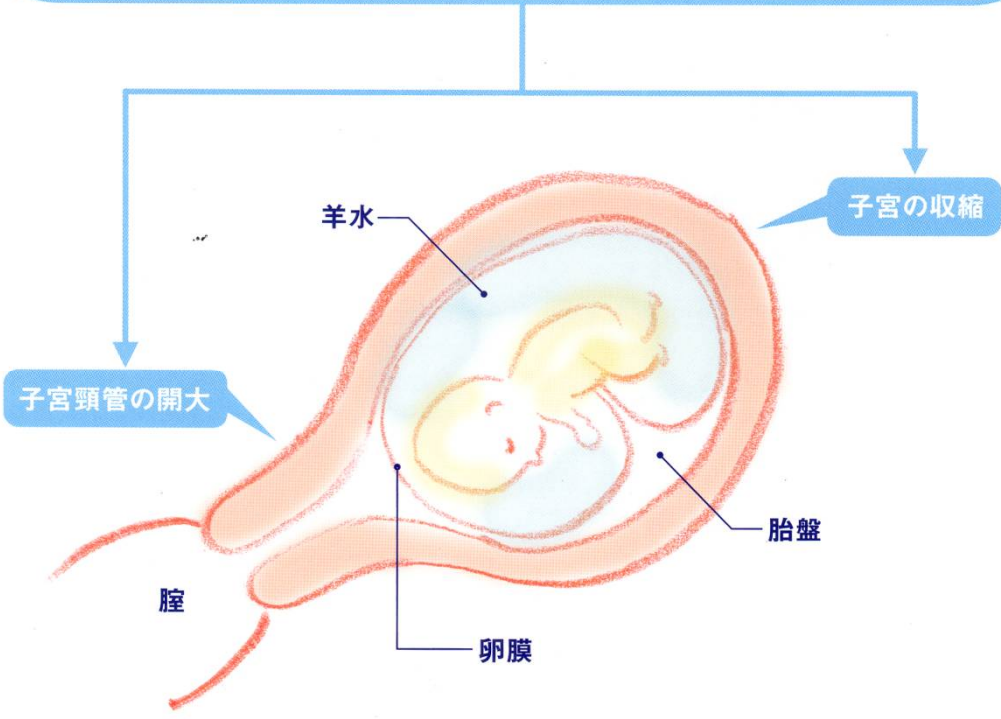
腔から入った細菌によって、頸管や子宮内で炎症が起こることがあります。炎症によって、赤ちゃんを包んでいる膜(卵膜)が破れて、破水する場合もあります。

頸管無力症

子宮の入り口(子宮頸管)が柔らかく、自然に広がってしまい、正期産まで子宮内に赤ちゃんを入れておくことができない状態です。

お母さんの合併症 など

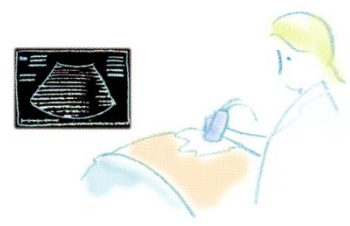
多胎妊娠(双子、三つ子など)、羊水過多(羊水の量が多い)、前置胎盤(胎盤の位置の異常)、妊娠中毒症、子宮筋腫なども切迫早産の原因となります。



切迫早産の検査

切迫早産の診断やその原因を調べる検査としては、次のようなものがあります。

- 内診..... 子宮頸管の柔らかさや、広がり具合を知ることができます。
- 経膈超音波..... 子宮頸管の広がり具合や、頸管の長さなどを計測します。
- 腔内の分泌物の検査..... 破水の有無、頸管や子宮内での炎症の状態を調べます。また、分泌物を培養することで腔内にどんな細菌がいるかを調べます。
- 血液検査..... 炎症を示す物質などを測定します。
- 分娩監視装置..... 子宮収縮の状態を知ることができます。



切迫早産の治療

切迫早産と診断されたら、早産を防いで正期産か、そうでなくてもできるだけ正期産に近い出産となるように、症状や原因に応じて、次のような治療を行います。

安 静

切迫早産の治療の基本です。身体面だけでなく、精神面でも落ち着いて静養することが大切です。なお、症状に応じて自宅安静または入院安静となります。



薬物療法

原因や症状に応じた薬を使用します。

手 術

頸管無力症の場合は、子宮の入り口が広がらないように縫合します。



- **子宮の収縮を抑える薬**..... 切迫早産の治療に使用される薬のなかで、もっとも一般的なものです。症状が軽いときは飲み薬が用いられ、ある程度症状が強い場合は点滴になります。
- **抗生物質、炎症を抑える薬**.. 切迫早産の原因が細菌などによる炎症と考えられるときに用いられます。
- **副腎皮質ステロイド薬**..... 早産となった場合に備えて、赤ちゃんの肺の機能を高めるために使用されます。
- **その他**..... 止血薬などが用いられることもあります。

お薬の副作用

切迫早産の治療でもっともよく使用される子宮の収縮を抑える薬（一般名：塩酸リトドリン）の副作用には、下記のようなものがあります。

主な副作用

- 心臓がドキドキする、脈が速くなる
- 顔のほてり
- ふらつき
- はきけ
- 手の指の震え など

特に注意が必要な副作用

- 呼吸が苦しい、胸の圧迫感
- 筋肉の痛み、手足に力が入らない、茶色い尿
- 発疹、全身のかゆみ、口内炎 など



※これらの症状がみられた場合や、その他に異常を感じた場合は、すぐ主治医にご相談下さい。

切迫早産と診断されたときの日常生活の注意点

切迫早産の治療の基本は「安静」です。

自宅安静の指示を受けた時は、これを心身の休養とリフレッシュのよい機会と前向きにとらえましょう。また、家事など何でも自分だけで完璧にこなそうとせず、ご主人やご家族の方にも協力してもらいましょう。

なお、家庭の事情でどうしても自宅安静できない場合には、入院も考慮する必要がありますので主治医に相談して下さい。

掃除、洗濯

掃除は細かいところは気にせずに、短時間ですませてしまいましょう。洗濯も一度に大量にするのではなく、その日の体調にあわせて少しずつしましょう。



料理

座って調理すると身体に負担がかかりません。冷凍食品やレトルト食品、お総菜を有効に活用したり、盛りつけを工夫するなどして、調理や後片づけの時間を短縮しましょう。ただし、栄養のバランスには注意して下さい。



入浴

長時間の入浴は疲れてしまうので避けましょう。また、体調がよくないときは、シャワーで簡単にすませるようにしましょう。



セックス

子宮が収縮してしまうので、絶対に避けて下さい。



運転

どうしても必要な場合を除いて、自動車の運転は避けましょう。また、自転車やバイクの運転は転倒の危険性もあるので、どんな事情があっても避けるべきです。



運動

マタニティーピクスや水泳など安産のための運動も、主治医の許可が出るまでは中断しましょう。

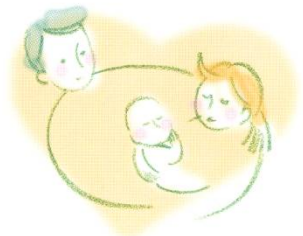


※これらはあくまでも目安であり、具体的な注意点は症状などにより異なりますので、主治医の指示に従って下さい。

ご主人やご家族の方へ

切迫早産で何よりも大切なのは、お母さんの安静です。また、切迫早産と診断されたほとんどの人が大きな不安を抱いています。

このようなときに、もっとも精神的、身体的な支えになるのがご主人やご家族の方です。赤ちゃんはまだ産まれていませんが、これが育児の第一歩と考えて、家事を手伝ったり、話し相手になったりして、お母さんを積極的に手助けして下さい。



提供：あすか製薬株式会社